

小原好一著「戦略としてのクオリティマネジメント これからの時代の“品質”」JSQC選書31
日本規格協会 2019年11月15日刊を読む

私の信条—120%の力を発揮するには『やる気(努力)×愛嬌×資質』が重要なキーワード—

1. (1) 私は、1968(昭和43)年4月に大学(理工学部建設基礎工学科)に入学したが、一学年の時は学生運動により大学が封鎖された影響でほとんど授業が受けられず部活動に明け暮れる毎日であった。
(2) さらに、就職に関しては売り手市場の時代で、民間企業を希望したほとんどの人は希望どおり就職ができたと記憶している。
2. (1) そのような学生時代を終え、1972年に前田建設に入社してから環境は激変した。
(2) 大きな舞台で体を動かす働き方をしたいとの思いからダム造りを希望し、それ以来33年間ダム現場に従事したが、建設現場はとにかく「忙しい」の一言であった。
(3) 最初は腰が引けたが、力の限界に当たって身を以て感じたことは、「100%の力」にとどまっていたは持てる力を出し切るだけで終わってしまうという思いであった。
(4) さらになる高みを目指すためには、先輩、上司からの仕事の指示がきたら全てを受け入れること——すなわち、「与えられた仕事から逃げずに、その仕事に対して120%の力を出し切る」ことにより、達成感と新たな課題への挑戦意識が生まれ、結果として大きな力に結びつくのだと信じて、今日まで貫き通し続けている。
3. (1) さて、120%の力を発揮するには「やる気(努力)」が最も大事であるが、がむしゃらに仕事をするだけでは空回りとなる恐れがあり、リスクヘッジを考えた行動計画を心がけている。
(2) 例えばダム工事の場合、自然というリスクと闘わなければならない、雨、風、気温など、我々では制御できない現象に遭遇するに当たって、自然への謙虚な畏怖心を持ち、適切な判断を行うための行動計画が必要となる。
(3) そして、「愛嬌」も不可欠な力である。
(4) 「部下のために何かしてやろう」「上司のために一生懸命尽くしてやろう」と思わせるような人を惹き付ける力が愛嬌であり、自分自身が他のために尽くすことによって、磨かれていくものだと思う。
(5) また、「資質」ももちろん重要な要素であるが、これは努力によってある程度カバーできる。
4. 上述した内容を総括すると、120%の力を発揮するには『やる気(努力)×愛嬌×資質』が重要なキーワードであり、私の仕事の信条と位置付けている。

5. (1)そして、一般的には「人事を尽くして天命を待つ」であるが、私は「天命を知って人事とを尽くす」を座右の銘としている。
- (2)2009年に社長を引き受けるに当たり大役は務まらないと悩んだが、前社長の「ものづくりに徹してほしい」との言葉が天命と受け止める契機となり、自分の人生は「人事を尽くして天命を待つ」の逆であろうと直感した。
- (3)自らの天命を知って、その天命を受け入れて自覚し、その天明のためにベストを尽くす。
- (4)それが最も幸せな人生と実感している。ゆえに今は、若人たちに、人はそれぞれ活躍の場が用意されていて、そこで全力を尽くせばよいのだと語り続けている。

P28 ~ 29

<コメント>

「ものづくり×サービス×ICTによる価値共創」がこれからの時代の「品質(クオリティ)」を築きます。小原好一・前田建設工業社長による「クオリティマネジメント」のテキストです。是非ご一読を。

2020年2月23日(日)